

令和2年度

学校自己評価表（報告）

学校運営計画					
学校運営方針		基礎学力の充実を図るとともに、基本的な工業の知識・技術を習得させ、社会の急速な変化にも自信を持って対応し得る柔軟で豊かな人間性を育み、地域と連携し、社会に貢献できる人材の育成を目指す。			
昨年度の成果と課題		R2年度の重点目標	具体的目標		
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元企業の製造現場を直接見学することにより、工業分野への学習意欲や将来に向けた職業意識を高めることができた。 ・特別支援教育では、生徒情報の校内共有体制を強化した。個別支援計画を策定し関連機関やスクールカウンセラーと連携しながら指導にあたった。 ・4年制大学に22名の合格者を出した。専門分野の知識技術を深めようとする希望に対する進路指導の成果が見られた。 ・インターンシップ、デュアルシステム、企業訪問等のキャリア教育を積極的に推進し、就職率100%を達成した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力でつまづいている生徒を対象に、個々に相応しい補習等を行う。 ・各教科で定期的に授業評価を実施し、それをもとに分かりやすい授業の実現し、基礎学力向上及び進路実現をサポートする。 	基本的な生活習慣の確立と自律的な生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の共通理解、一致した指導 ・特別支援教育・教育相談充実 			
	基礎学力の定着と学習意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい授業の展開 ・週末課題、確認テスト、基礎学力テスト、補習等による基礎学力と家庭学習の習慣の定着 ・基礎学力定着の確認と現状分析 ・各種検定（英・数・漢・計算）や標準テストを活用した学力の向上 ・課題研究、実習をととした学習意欲向上 			
	進路指導の充実（キャリア教育）	<ul style="list-style-type: none"> ・進路情報の収集整理と生徒保護者への提供 ・1学年の早い時期から進路目標を持たせる ・就業体験や職場見学、大学見学等の充実 ・進路相談や面談の充実 ・進学に向けた補習授業の充実 			
	資格取得の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な指導、目的を持った資格取得 ・主要資格やジュニアマイスターの取得率の向上 			
	防災教育・防災体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じた防災教育の実施 ・防災体制の確立 ・緊急連絡体制の整備 			
	部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・指導体制の充実 ・運動部高加入率の維持 ・工業の専門を活かしたものづくり活動 			
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	
生徒指導	基本的な生活習慣の育成	・教職員から生徒に声を掛け、お互いに挨拶ができる環境をつくる。	B	B	B
		・生徒の遅刻・早退・欠席については、家庭と連携して減らすように努力する。	B		
	家庭・地域と連携を深め、教職員の共通理解をもって生徒指導を行う	・警察や中・高の職員等との生徒指導情報交換会を行う。	C	B	
		・教職員・生徒・保護者の共通理解のもとに守るべきルールを確認し、その遵守を徹底する。	B		
教育相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・相談室を整備し、教育相談（カウンセリング）ができる環境にする。 ・定期的に生徒と対話する時間を設ける。 ・各学期に、学校生活アンケートを実施する。 	・問題行動を起こした生徒に対しては、生徒指導部、担任を中心として継続的に指導を行う。	B	B	
		・相談室を整備し、教育相談（カウンセリング）ができる環境にする。	B		
		・定期的に生徒と対話する時間を設ける。	B		
研究・研修	研修しやすい環境をつくり、研修会を充実させる	・相談室を整備し、教育相談（カウンセリング）ができる環境にする。	B	C	B
		・定期的に生徒と対話する時間を設ける。	B		
		・各学期に、学校生活アンケートを実施する。	B		
教科指導	全職員の指導により、基礎学力の向上を目指す	・同和教育・人権教育・特別支援教育の研修会を実施する。	B	B	B
	生徒の学力を踏まえ分かりやすい授業を展開する	・同和教育・人権教育・特別支援教育についての学習会・研修会に積極的に参加する。	C		
	図書視聴覚教材の活用	・分かりやすい授業、興味を引く授業について研修し、互いに授業公開を行う。	B		
工業教育	工業科の意義と役割を理解させ、基礎技能の修得を図る	・基礎部分でつまづいている生徒を対象に、補習等を行う。	B	B	B
	資格取得の充実	・各教科で定期的に授業評価を実施し、それをもとに分かりやすい授業の実現を目指す。	B		
		・教科指導やHR活動の中で、図書教材や視聴覚教材を積極的に活用する。	B		
		・在学中に取得できる資格について一覧表を作成し、生徒・保護者に知らせる。	B		
課題研究の充実	・授業や補習を通して、資格試験に合格できるよう支援する。	B	B	B	
	・資格試験合格者を発表し、定期的に表彰式を開催する。	B			
産業界や大学の活用	・全ての科で課題研究発表会を実施する。優れた研究の全校発表会を開催し、外部に公開する。	B	B	B	
		・社会人特別講師や、地域の大学から講師を招き出前授業を実施する。	B	B	

令和2年度

学校自己評価表（報告）

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		
進路指導	1年次より学年に合った進路情報を十分に提供し、進路意識の高揚を図り早期に進路目標を持たせる	・進路の手引（冊子）を発行し、3年間の進路関係の動きを周知する。	B	B	B
		・進路ガイダンスなどを通じて、高大接続改革についての説明を行い、最新の情報を提供する。	B		
		・外部講師による進路ガイダンスを行い、生きた進路情報を与える。	B		
		・進路希望調査を定期的に行い、希望が実現できるよう、方向付けを手助けする。	B		
		・3年生に対して、就職・進学具体的な日程や手続きなどの説明会を行う。	B		
	保護者に対して進路情報を積極的に提供し、家庭での進路指導に役立ててもらおう	・進路担当者による保護者向けの進路説明会を行う。	B	B	
		・外部講師による進路ガイダンスに、保護者にも来て頂く。	C		
	担任との連携を深め、低学年からの進路意識の高揚に役立てる	・学年集会や科目選択説明会で進路状況を説明する。	B	B	
		・3学年担任と進路指導担当者との定期的な連絡会を持つ。	B		
	インターンシップ・デュアルシステムの実施	・2学年全員に3日間のインターンシップを体験させ、進路意識の高揚を図る。	D	D	
・2学年15～20名に10日間のデュアルシステムに参加させ、実践的な職業・技術を身につけさせる。		D			
健康・安全教育	校内の環境整備と生徒の健康維持に努める	・毎日の清掃の徹底と教室の整理整頓に努める。	B	B	
		・保健講話・学校保健委員会を行う。	B		
		・健康診断結果、受診が必要な生徒の受診率向上に努める。	B		
	交通安全の意識を高める	・警察官による「交通安全講話」を行い、安全意識を全体的に高める。	C	B	
・原付免許取得者に対して、実技講習を行い、事故防止の運転技術を全体的に高める。	B				
家庭・地域との連携	家庭、地域、関係諸機関との連携強化を図る	・学校からの案内を保護者に確実に届くようにする。	B	B	
		・休日にPTA総会を開催し、より多くの保護者から参加してもらい、学校と家庭との連携を深める。	A		
		・学校案内を作成し、積極的に柏工を紹介する。	B		
	体験入学の実施	・中学生・中学校の教員・保護者を対象に体験入学を実施し、本校の特長を理解してもらおう。	B	B	
	本校のホームページを充実させる	・ホームページを充実させ、校内の最新の情報を掲載する。	C	B	
		・各科の実習内容などの最新の画像を掲載し、各科の特長・工業高校の特長をより多くの人に理解してもらおう。 ・課題研究の内容を掲載し、生徒の学習状況を知ってもらおう。	B		
人権教育	人権意識を高め、人権問題についての理解を深める	・同和教育講演会や人権・同和問題についての特別ホームルームを行う。	B	B	
		・いじめ防止、対策について生徒アンケート等を実施し、現状把握と事後指導を適切に行う。	B		
生徒会	生徒会・部活動の活性化を図る	・生徒の自主性を重視した生徒会活動・行事を推進する。	B	C	
		・定期的に部活動の壮行式・表彰式を行い、部活動のサポート態勢を推進する。	C		
		・各種大会の結果を、大会後速やかに生徒・職員に報告するシステムを確立し、部活動の活性化につなげる。	C		
	ボランティア活動に取り組む	・主体的に、環境、福祉、災害などのボランティア活動を行う。	B	B	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響を受けたが、工業分野への学習意欲や職業意識を高めることができた。 ・特別支援教育では、生徒情報の校内共有体制を強化でき、関連機関やスクールカウンセラーと連携しながら指導にあたることができた。 ・長岡技術科学大学（1名）、公立鳥取環境大学（1名）を含む22名の四年制大学合格者を出し、進学指導の成果が見られた。 ・インターンシップ・デュアルシステムを実施できなかったが、粘り強い進路指導を行い、就職率100%を達成した。 		総合評価		
			B		